

平成 30 年度 海外インターンシップ報告書

信州大学 理学部 理学科 生物学コース 3年

実習期間	平成 30 年 9 月 2 日(日) ~ 9 月 8 日(土) 7 日間
実習企業	台湾野村股份有限公司
実習地	台湾 台中市

1. 実習目的

Chapter1 purpose

今回のインターンシップを通じ、海外で働くことのイメージを明確にし、異なる文化や価値観を持つ人と働くことによって自分自身の視野を広げたいと思い志望しました。様々な国の方が一つの企業の中で働くにあたり、コミュニケーションを図ることが最も重要だと考えていますが、実際はどうかを自身で体感したり、現場で働いている方からのお話しをお聴きしたりしたいです。また、急速に経済発展を遂げている台湾で働くことで、世界の製造業の現状を知るきっかけとしたいです。

2. 実習先概要

Chapter2 summary of company

台湾野村股份有限公司

本社 中華民國台灣省台中市梧棲區中港加工區緯四路 2 號

創業 1987 年 (民國 76 年) 2 月

代表者 董事長 野村 稔

總經理 林 清醮

資本金 NT\$46,260,000

売上高 10 億円

従業員数 70 名

事業内容

- ・ 専用器・搬送設備の装置製造 (液晶、半導体、太陽電池、その他業種)、精密部品加工、精密板金部品加工、据付及びメンテナンス
- ・ バルブアクチュエータの製造・輸出
- ・ 台湾における洋酒 (ワイン等) の輸入・販売

工場 台中本社工場 土地 : 18,600 m² (5,636 坪)、建物 : 7,260 m² (2,220 坪)

事務所 台北事務所 (台灣省台北市信義路五段五号 3D14 室 台北世界貿易センター 3F)

台中本社は工業区の 1 つである輸出加工区に所在することが最大の特徴です。輸出加工区に所在する企業は、輸出加工促進からハイテク、高付加価値産業の推進に大きく目的を転換することが使命とされています。一方で、生産に必要な輸入機械設備、原材料、部品、燃料等に対する関税、物品税、営業税が免除されたり、家屋税が 3% から 1.5% に軽減されたりといった税制に関わるメリットを受けられます。

3. 実習日程

Chapter3 schedule

平成30年9月2日(日)から8日(土)までの7日間。勤務日は、平日のみの5日間。勤務時間は、8時30分から17時30分。うち休憩時間は1時間。

4. 実習内容

Chapter4 laboratory

9月3日(月)

- ・会社案内・工場見学
- ・加工区等台中特別区見学
- ・管理系業務研修

9月4日(火)

- ・営業系業務研修
- ・品質系業務研修

9月5日(水)

- ・高雄日本人会訪問
- ・日本交流協会訪問

9月6日(木)

- ・生産管理業務研修
- ・製造系業務研修

9月7日(金)

- ・生産管理業務研修
- ・製造系業務研修

5. 実習の成果（成長した事）

Chapter5 result

実習当初、インターンシップ参加の目的は、海外で働くとはどういうことなのかを学び、そして製造業の業務を体感するためと考えていました。しかし、インターンシップを通じ、そもそもの働くとはどういうことなのかということを考え、学ぶことができ、非常に有意義な一週間を過ごさせていただきました。

まず始めに、働くことには大きな責任を伴うものだと感じました。各部門によって差はありますが、共同で行う業務もあれば、一人で行っている業務もあるとのことでした。その中でも、営業の方は決められた予算や現在の従業員数でこなせる仕事量かを考え、仕事を引き受けなければならないそうです。その上、これらの仕事を自分一人で行わなければならないとおっしゃっており大変驚きました。今まで私が生活してきた中で、これほどまでに大きな責任を伴う経験をしたことがなかったので、学生と社会人とのギャップを感じました。自分自身の言動に責任を持てるようになることを学生生活の残り一年半で身につけるということを課題にしたいと思いました。一方で、大きな責任を感じながらも、それ以上に各自に任せられていることを誇りに思い、仕事を自らの裁量で自由に行えるということを楽しんでいるという印象も受けました。このような仕事に対する姿勢は非常に素晴らしいと思うとともに、直接見せていただいたことは貴重な経験

となりました。

また、海外のインターンシップに参加したからこそ得られた経験もありました。海外で働くには、想像通りコミュニケーションを図ることが重要だというお話を多くの方から伺いました。しかし、コミュニケーションを図ること以上に文化の違いを受け入れることも大切だと教えていただきました。文化の違いは働き方の様子の違いを生じさせるとのことでした。特に台湾では自らのスキルアップのためや労働の条件がよくないと感じた場合、日本と違い簡単に転職するという違いがあるそうです。そのため社員が働きやすいような環境を整備したり、積極的にコミュニケーションを図り、社員との信頼関係を構築したりすることを大切にしているそうです。やはり、海外で働く上では、その国の文化や慣習に倣わなければならないということを教えていただきました。

6. 今後の課題

Chapter6 problem

インターンシップ参加以前は、外国において多国籍民がともに働くためには、英語が扱えることが最も重要だと考えていました。これは私自身がこれまでに外国人と交流や生活をしたことがあります。英語が扱えたことで彼らとも問題なく接することができた経験に基づくものでした。しかし、実際に現場を見せていただき、私の考えは変わりました。英語は一切使われていませんでした。日本人出向者でさえも中国語を使っていました。これには驚かされましたが、海外まで行ったからこそ見られた非常にいい経験でした。この日本人出向者に中国語を覚えた背景を聞かせていただいたところ、日本語から中国語を通訳できる台湾社員もいるが、通訳を介すと日本語の細かいニュアンスが伝わりにくい、そのため自らで勉強したとのことでした。また、現地の総経理・副総経理は台湾人ですが、中国語と日本語の両方が扱えていました。彼らは、私たちがトップに立てたのは日本語が話せたからとおっしゃっていました。以上のようなお話を伺い、現地語を扱えずとも働くことはできるが、その先を目指すのであれば多言語を使えることが不可欠だと感じました。私は現在母国語である日本語と中学生の時から勉強している英語のみしか使えません。今回のインターンシップに参加することで英語以外の言語を勉強する必要性を感じられました。今後は英語以外の言語にも積極的に挑戦したいです。

7. 海外インターンシップに行こうか迷っている学生に一言

Chapter7 Advice

海外インターンシップに参加する目的が必ずしも将来海外で働きたいからでなくてもいいと思います。学生の中に海外企業を見られる経験は誰もができることではない非常に貴重なものです。一度海外企業を直接見ることで、自らの見聞を広げ、就活の参考にすくらの気持ちで参加してみてください。きっと参加前には想像もつかなかった感想を持つことでしょう。そして一回り成長した自分になっていることでしょう。

8. 謝辞

Chapter8 Address of gratitude

インターンシップは一週間という限られた時間でしたが、本報告書に記せたこと以外にも多くを学ばせていただきました。そして、今まで漠然としていた社会人として働くことへのイメージが明確になりました。海外企業で学生の中に働く経験を積めることはとても有意義なことです。このような素晴らしい機会を設けていただいたこと、私のために貴重なお時間を割いていただいたことに感謝します。ありがとうございました。